

智頭町芦津地区の湧水に関する調査研究

発表者

○十倉 毅 鳥取環境大学 環境情報学部 建築・環境デザイン学科 教授

概要

現在、県内のいくつかの地域では、過疎化対策のため、あるいは観光資源として、水を活用しようとする動きがある。本調査研究は、鳥取県環境学術研究振興事業に採択された「鳥取県の名水に関する調査研究」(2004年度および2008・2009年度、3年間)における3年間の蓄積を、「森林セラピー事業」を展開中の智頭町芦津地区に応用し、同地区への来訪者に「渓谷美のなかの湧水」を提供するために、東屋一棟、水琴窟一基を含む水場整備を計画・実施したものである。

『目的』 本調査研究の目的は、これまでの「鳥取県の名水に関する調査研究」の成果を、森林保全と地域の活性化を目指す智頭町の「森林セラピー事業」に活用することであり、併せてこれを過疎化が進む本県他地域の地域振興に係わるパイロット事業の一例を示すことにあった。

『方法・手法』 調査研究にあたっては、智頭町建設農林課および本学学生の協力を得て、下記の内容で実施した。なお、芦津地区では12月中の降雪が予想されるため、東屋建設については、図面作成を本調査研究の一応のゴールと考え、そののちは、智頭町と本学との「森林の価値創造並びに地域の活性化に係わる研究協力」に基づいて自費(本学個人研究費)で東屋・水琴窟の工事費を賄うこととした。

4月・・・智頭町「森林セラピー認定記念式」に出席、水場整備の意を強くする。水質検査練習。(2010年)

5月・・・芦津地区の地質調査、森林セラピー構想の詳細聞き合わせ。水質検査練習。

6月・・・森林セラピー基地トレッキングコース周辺における水場探索、および水質検査実施。

7月・・・地勢図、地質図の資料収集。トレッキングコース周辺における水場探索、および水質検査実施。

8月・・・水場の整備対象を「沖の山トンネルの水」に絞る。鳥取保健事業団水質検査(飲用・適)。

9月・・・現地の地形測定、東屋図面作成着手。智頭町長より水琴窟設置を要望され、了承。

10月・・・図面完成。鳥取県東部総合事務所、八頭総合事務所より水琴窟・東屋の設置許可さる。

11月・・・智頭町提供によるスギ間伐材およびカメを用い、東屋・水琴窟の工事開始。

12月・・・初旬、降雪のため東屋・水琴窟とも一部を残して工事中断。

1月・・・図面修正、データ整理。2月・・・東屋・水琴窟の標識制作。3月・・・報告書作成。(2011年)



写真1 埋設時のカメ(内径90cm)



写真2 水琴窟上部(注水設備未完)



写真3 東屋と参加学生

【特許登録／出願情報】 発明の名称:

発明者:

【来場者へのメッセージ】

2011年4月、雪解けを待つて東屋および水琴窟の標識、水琴窟の注水設備等が完成しました。芦津「沖の山トンネル」をお訪ねになりませんか。緑と水音があなたを待っています。

連絡先: 鳥取環境大学環境情報学部 建築・環境デザイン学科 教授 十倉 毅

鳥取市若葉台北1-1-1 TEL. 0857-38-6772 E-mail:t-tokura@kankyo-u.ac.jp

分野

建築環境工学

プレゼンタイム

有

無

